

# 若手教員への「愛」ある支援プロジェクト

## －総合教育センターの研修・教育相談・学校支援を通して－

若手教員支援プロジェクトチーム 川野光正 陶山紀宏 北山利奈  
 檜垣賢一 石崎正人 亀岡修  
 加藤伸弥 和田知子 伊賀上知晴  
 越智宣和  
**【要 約】**

本プロジェクトは、教職経験がおおむね5年未満の教員（若手教員）を対象とした支援事業で、若手教員の資質・能力の向上を目指した支援（研修事業）と、若手教員の不安や悩みの解消と課題の解決に向けた支援（相談事業）を行うものである。これらの支援をセンターの事業に位置付け、プロジェクトチームを中心に、各室での支援事業や室同士が連携した支援事業を展開したり関係機関と連携した支援を行ったりすることで、きめ細やかな支援を行うことができた。

**【キーワード】 若手教員支援 連携**

### 1 プロジェクトの主旨

文部科学省が3年ごとに実施している「学校教員統計調査」（令和元年度）によると、公立学校における年齢の若い教員の割合は増加しており、平成22年度と令和元年度の30歳未満の教員数の比率を比べてみると、小学校では5.9%、中学校では4.8%、高等学校では4.4%増加している（表1）。

表1 30歳未満の教員数の比率

年度 校種	平成22年度	令和元年度
小学校	13.3 % (n=384, 632)	19.2 % (n=375, 653)
中学校	11.3 % (n=210, 526)	16.1 % (n=216, 902)
高等学校	6.8 % (n=169, 037)	11.2 % (n=158, 479)

この状況は、定年を迎えた教員の大量退職と新規教員の大量採用に起因している。愛媛県における教員の採用候補者数においても、10年前が200名前後であったのに対し、ここ数年は、400名を上回る状況が続いている（図1）。

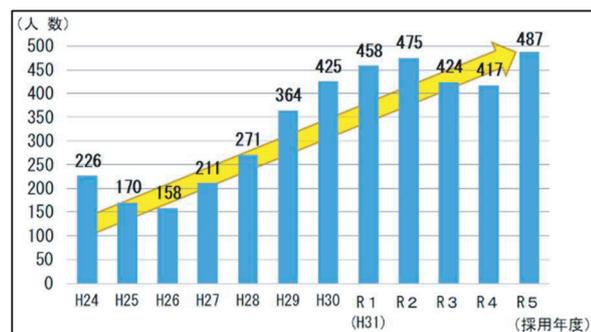


図1 愛媛県における教員の採用候補者数

経験年数の少ない教員は、程度の違いはあるにせよ、学習指導、生徒指導、業務処理、学級経営、部活動、人間関係、ワーク・ライフ・バランス等、多岐にわたって何らかの不安や悩みを抱えている。

そのような不安や悩みを解決するためには、同年代の教員同士のコミュニケーションや先輩教員からのアドバイスが不可欠である。そして、それらは、教員としての資質・能力を身に付ける上で大きな役割を果たすものでもある。しかし、ここ数年は、コロナ禍による交流の場の欠如やミドルリーダー世代の減少により、教員同士の横のつながりや縦のつながりが希薄になっている現状がある。経験年数の少ない教員への支援は、早急に解決すべき重要な課題であると言える。

そこで、本センターでは、令和3年度に、教職経験がおおむね5年未満の教員を若手教員とし、若手教員を対象とした支援プロジェクトを立ち上げた。そして、若手教員の資質・能力の向上を目指した支援（研修事業）と、若手教員の不安や悩みの解消と課題の解決に向けた支援（相談事業）を行うこととした。これらの支援をセンターの事業に位置付け、各室での支援事業や室同士が連携した支援事業を展開することで、全ての若手教員が、教員としての資質・能力を高めながら愛顔で教育活動に携われることを目指している。このプロジェクトにセンター全体で取り組むため、各室の担当指導主事をメンバーとした若手教員支援プロジェクトチーム

を編成し、全6室が連携を取りながら、事業を行うこととした（図2）。

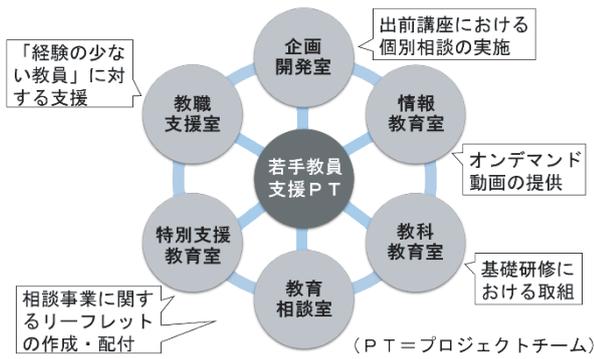


図2 プロジェクトチームと事業内容

令和3年度末には、事業内容の概要を示す概念図（ポンチ絵）を作成した（図3）。



図3 事業内容の概念図（一部抜粋）

この資料は、4月に行われた校長会等で資料として配付し、本プロジェクト事業についての周知を図った。

## 2 プロジェクトの内容

### (1) 出前講座における個別相談の実施

本センターでは、学校等からの要請に応じ、担当の指導主事が、対面やオンラインで、各学校の校内研修及び教科等研究委員会や市町教育委員会が主催する研修を支援する出前講座を実施している。本年度は、53の講座を開講し、12月末現在で156件の申込みがあった。この講座は、毎年多くの申込みがあり、有意義な講座として好評を得ている。

この出前講座実施後に、講座内容についての個別相談を受けることが多かったことから、本年度は、出前講座の申込みフォームに個別相談の希望欄を作成し、事前に受け付けることにした。特に、若手教員に個別相談を気軽に活用し

てもらえるよう、申込書にもその旨を記載した（図4）。

E-mail		kvoikucenter@esnet.ed.jp	
本センターでは、若手教員等、教職経験の少ない教員の資質・能力の向上、不安や悩みへの軽減に向けた支援を実施しています。その一つとして、出前講座において実施した講座内容に関する個別相談を行っています。お気軽に御活用ください。 なお、希望がある場合には、申込書の受理後、教育センターの講座担当者から学校の担当者の方に連絡いたします。			
講座内容に関する個別相談（講座後）の希望の有・無	希望する	<input type="radio"/>	希望しない
			※「希望する」「希望しない」のどちらかを選択し、○を入力してください。

図4 「出前講座」申込みフォーム（一部抜粋）

12月末現在で、個別相談は31件あり、そのうち、若手教員からの相談は23件であった。講座後に実施したアンケートでは、「初任者に対して、親身になって相談に乗っていただいた。講座後の個別相談は今後も継続してほしい。」などの感想が寄せられた。ある学校からは、「初任者は相談後、「話を聞いてもらえて心が軽くなった。」と明るい表情で申しておりました。」という内容の感想が寄せられた。これは、個別相談の一つの成果と捉えることができる。

### (2) オンデマンド動画の提供

若手教員や若手教員の研修に携わる教員に向けて、本センターでこれまでに作成したオンデマンド動画を、オンライン研修システムにアップし、自由に視聴できるようにした。各室で、提供できる動画をリストアップし、合計37本提供した。各学校に配付した動画配信に関する資料には、「動画タイトル」の横に「対象」の欄を設け、どの教員に向けた動画なのかを明確に示すようにした（図5）。

番号	動画タイトル	対象					配信時間
		小	中	高	養	特支	
1	学校組織マネジメント	○	○	○	○	○	19分
2	ミドルリーダーの在り方	○	○	○	○	○	19分
3	教職員のメンタルヘルス	○	○	○	○	○	25分
4	(高校地理B) 地理情報と地図			○			20分
5	(高校地学基礎) 地球内部の層構造 プレートの運動			○			10分
6	社会科の学びの工夫と改善		○				30分
7	地理の授業づくり			○			40分
8	総合的な学習の時間	○	○				24分
9	考え、議論する道徳	○	○	○	○	○	10分
10	道徳科における評価	○	○	○	○	○	8分
11	道徳科における評価の振り返り（道徳科）	○	○	○	○	○	6分

図5 動画配信に関する資料（一部抜粋）

配信した動画の内訳は、教員の実践的指導力につながる動画が30本、学校の組織力等につながる動画が7本である。

12月末までに動画を視聴した教員は564名で、視聴した教員を校種別でみると、小学校57%、

中学校27%、県立学校16%であった（図6）。また、564名のうち、約半数が若手教員による視聴となっている。

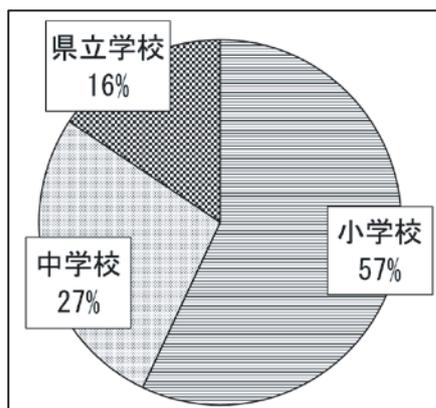


図6 視聴した教員の校種別の割合

オンライン研修システムにアップした動画を、視聴回数の多かった順に示し、全体と若手教員の結果を比較した（表2）。

表2 視聴回数の多かった動画

全 体	若手教員
1 学校組織マネジメント	1 学校組織マネジメント
2 ミドルリーダーの在り方	2 教職員のメンタルヘルス
3 考え、議論する道徳	3 ミドルリーダーの在り方
4 問い返しの発問とは（道徳科）	4 考え、議論する道徳
5 教職員のメンタルヘルス	5 問い返しの発問とは（道徳科）
6 道徳科における評価	6 文書作成・表計算（初級）
7 文書作成・表計算（初級）	7 道徳科における評価
8 特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援	8 社会科の学びの工夫と改善
9 教育相談のポイント	9 教育相談のポイント

若手教員が多く視聴した動画は、全体の傾向とほぼ同じ内容となっているが、「教職員のメンタルヘルス」の動画が多く視聴されており、若手教員を取り巻く環境が、容易ではないことがうかがえる。小学校の若手教員は、1年目から学級担任を任されることが多く、日常の学習指導や校務分掌の事務処理に加え、生徒指導や保護者対応等、先輩教員と同等の対応を求められる現状がある。中学校や県立学校の若手教員は、生徒指導の難しさに直面したり、経験の少ない部活動の顧問や副顧問を任されたりする現状がある。日々の学習指導のために多くの時間を必要とする若手教員にとって、学習指導以外の業務に時間を費やすことは大きな負担となることが考えられる。また、心身の不調を訴える教員の増加がニュース等で取り上げられることもあり、メンタルヘルスへの興味・関心の高さが

うかがえる。

### (3) 基礎研修における取組

若手教員がどのような悩みを多く持っているのか、初任者研修やフォローアップ研修を通して把握した悩みについて分類した（図7）。

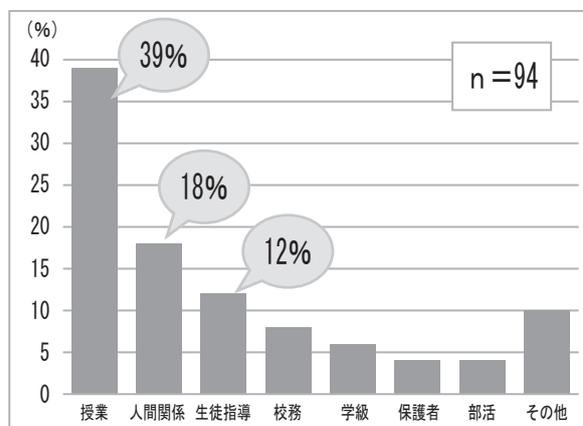


図7 若手教員の悩み

悩みの上位3項目は、「授業づくり」「人間関係」「生徒指導」であった。その理由は様々で、若手教員一人一人に応じた支援が必要なことが分かった（表3）。

表3 若手教員の悩みの主な理由

授業づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的に取り組める授業ができていない。</li> <li>・ICT活用が十分ではない。</li> <li>・学習活動をどのように評価するのかよく分からない。</li> </ul>
人間関係
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒との関わり方が難しい。</li> <li>・保護者と信頼関係を築くには、どのようにすればよいのか。</li> </ul>
生徒指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような指導が効果的なのか学びたい。</li> <li>・携帯電話、SNS等によるトラブルの指導や改善が難しい。</li> </ul>

そこで、若手教員の多様な悩みに寄り添い、支援する場として、基礎研修では、次のア～ウに重点を置いて取り組んだ。

#### ア 若手教員同士のつながりづくり～協議や交流の時間の設定～

同期のつながりは、教員生活において大きな支えになることを考慮し、集合研修では、従来から、若手教員間の交流を図れるように計画していた。特に、初任者研修やフォローアップ研修などの基礎研修においては、講座の中で協議

の時間を設定するようにした（図8）。



図8 協議の様子（小学校初任者研修）

令和2、3年度においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、集合研修が実施できないことが多く、若手教員同士のつながりづくりに課題が感じられた。そこで、本年度は、オンライン研修になった場合でも、自由に話せるブレイクアウトセッションの時間を、可能な範囲で確保するよう計画した。実際、台風の影響でオンラインになった研修があり、ブレイクアウトセッションを活用した交流の場を設定し、実施することができた。

研修で同期の教員と交流した受講者の所感文には、下記のような記述があった。

- ・「同期」や「仲間」という横のつながりの心強さと大切さを学ぶことができた。
- ・同じタイミングで愛媛の教員として働くことになった縁だと思い、今後のモチベーションにつなげていきたい。
- ・意見交換をすることによって、課題解決のためのヒントを多く得ることができた。
- ・同期の先生と直接会うことはできなかったが、研修後、校種別に話し合う時間を設けていただき、1学期大変だったことや、近況、今後の予定などを話し合うことができた。（オンライン研修となった受講者）

協議を通して、心強さを感じたり、モチベーションを高めたりすることができ、同期のつながりの大切さを実感することができた。

#### イ 先輩教員との交流（キャリアアップ研修Ⅱとのコラボ講座）～先輩教員に学ぶ協議の場の設定～

小・中学校初任者研修及び県立学校フォローアップ研修では、各校種のキャリアアップ研修Ⅱの受講者と協議を行う「先輩教員に学ぶ」と

いう講座を設けている。初任者研修やフォローアップ研修受講者には、日頃の学級経営、生徒指導等で悩んでいることについて先輩教員からアドバイスをもらう機会として、キャリアアップ研修Ⅱ受講者にとっては、ミドルリーダーとしての自覚を持ち、若手教員を支援する意識を高める機会として行っている（図9）。



図9 先輩教員との交流（県立学校フォローアップ研修）

先輩教員と交流した受講者の所感文には、下記のような記述があった。

- ・先輩教員に助言をいただくことで、トラブルは、児童に対する働きかけで未然に防ぐことができると分かった。
- ・今後は、縦、横の連携を図り、より充実した教員生活を送りたい。
- ・先輩の先生の助言から、受身の姿勢で保護者対応をしていたことに気付かされ、大変勉強になった。
- ・学校でも、困ったことがあったら一人で抱え込まずに、積極的に先輩の先生方に相談したいと思った。

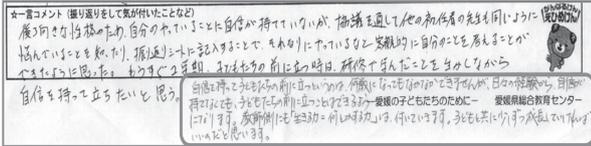
悩みについて先輩教員と話し合うことで、新たな解決方法に気付いたり、違った見方をすることができたりするだけでなく、自分の所属する学校でも、先輩教員から学んでいこうとする意識を高めることができた。

#### ウ 総合教育センター指導主事の担当制によるフォローアップ

初任者研修では、少人数での班を編成し、担当の指導主事が年間を通じて関わるようにした。

担当の指導主事は、グループ協議の際に交流を深めたり、研修後に初任者が提出する「振り返りシート」にコメントを記入したりした（図10）。

教師力振り返りシート【小学校初任者研修受講者】



教師力振り返りシート【中学校初任者研修受講者】

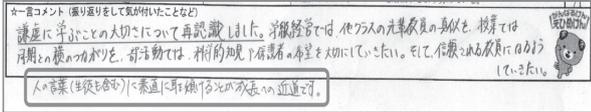


図10 教師力振り返りシート（一部抜粋）

担当制を取り入れることで、指導主事自身が意識して担当の初任者と関わりを持ち、きめ細やかなフォローアップに取り組むことができた。

(4) 相談事業に関するリーフレットの作成・配付

本年度、教育相談室と特別支援教育室が中心となって、相談事業に関する教員向けのリーフレットを作成した（図11）。



図11 相談事業のリーフレット

この相談事業は、児童生徒や保護者だけでなく、学校現場の教員も利用可能なもので、子どもたちの健全育成のため、日頃、気になっていることを、気軽に安心して相談できる窓口として活用してもらうことを目的としている。この相談事業を、多くの若手教員に知ってもらい、少しでも不安や悩みの解決につながればと考え、このリーフレットを作成した。本センター主催の、初任者研修、フォローアップ研修、キャリアアップ研修 I において、約750部を配付した。

(5) 「経験の少ない教員」に対する支援

この支援は、経験の少ない教員が少しでも前向きになり、教員生活を充実させる一助となることをねらいとして行っている事業である。学

校からの依頼に応じて、教職支援室の指導主事が学校を訪問し、授業参観や個別面談、資料提供等を通じて支援を行った。また、学校訪問後にフォローアップとして電話連絡を行い、継続した支援に取り組んだ。本年度は、15校から、33名の若手教員に対し、支援の依頼があった。全体的な傾向としては、小学校からの依頼が多かった。

若手教員に対し、個別面談でどのような支援を行ったかについて、分類した（図12）。

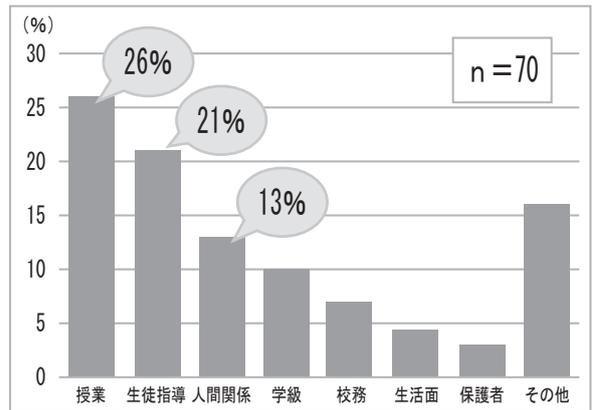


図12 個別面談での支援内容

支援の上位3項目は、「授業づくり」「生徒指導」「人間関係」であった。これは、基礎研修における取組で紹介した、初任者研修やフォローアップ研修における受講者の悩みの上位項目とほぼ一致しており、これらの悩みが若手教員の共通の悩みであると考えられる。上位3項目の支援に結び付いた若手教員の悩みの内容には、表4のようなものがあり、ここからも、若手教員一人一人に応じた支援が必要であることがうかがえる。

表4 支援に結び付いた若手教員の主な悩み

授業づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中、話を聞かない児童がいて困っている。</li> <li>指導に配慮を要する児童がいて、授業づくりに苦労している。</li> <li>教科指導のスキルを高めたい。</li> </ul>
生徒指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめをつけさせたいと思い取り組んでいるが、うまくいかない。</li> <li>言い争いが度々ある。話し合いの場を設けてもなかなか解決しない。</li> </ul>
人間関係
<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションをとることが苦手である。</li> <li>声が掛けられない。</li> </ul>

### (6) 関係機関やセンター各室と連携した支援

本センターと関係機関が連携し、若手教員へのよりきめ細やかな支援を行うこととした。特に、このプロジェクトを立ち上げたのを機に、教職員厚生室（愛媛県教育委員会）との連携を図った。

具体的には、本センターの教職支援室が窓口となり、教職員厚生室との連携を図った。教職員厚生室が行っている巡回相談の時に、本センターの相談事業に関するリーフレットを配付していただいたり、本センターの基礎研修の時に、教職員厚生室の相談事業に関するリーフレットを配付したりして、互いが行っている支援の取組を、若手教員へ紹介することができた。さらに、教職員厚生室主催の研修会へ参加するなど、互いの事業について理解を深め合った。

また、本センター各室が連携して若手教員への支援に取り組むため、プロジェクトチームで、月1回連絡会を行った（図13）。



図13 連絡会の様子

各室が取り組んでいる支援について情報を共有することができ、連携して若手教員への支援に取り組むことができた。また、「経験の少ない教員」に対する支援では、学校訪問の際、若手教員が悩んでいる内容や依頼内容に応じて、教職支援室から他室の指導主事に、資料の準備や同行を依頼し、より専門的な支援が行えるようにした。

### 3 まとめと今後の展望

プロジェクトチームを立ち上げたことにより、関係機関やセンター各室で情報を共有し、連携したきめ細やかな支援を行うことができた。また、プロジェクトを推進する中で、若手教員の具体的な悩みを把握するとともに、一人一人に応じた支援が大切であることが分かった。

今後は、この事業が、来年度も継続的・発展的な支援となるようプロジェクトチームで検討を重ね、推進していきたい。例えば、出前講座後の個別相談やオンデマンド動画配信の継続、そして、相談事業のリーフレット配付の継続と本センターホームページへの掲載などを考えている。また、来年度の基礎研修等の中で、若手教員が自分の思いや悩みを共有できる場を更に充実させるとともに、今回のプロジェクトで把握した若手教員の不安や悩みに対応した内容を、各研修の講座に取り入れたい。

若手教員への「愛」ある支援が、全ての教員への支援の輪を醸成することにつながり、若手教員と先輩教員が一致団結して愛媛の子どもたちへの教育に取り組むことを願ってやまない。

### 主な参考文献

- 文部科学省「令和元年度学校教員統計調査－結果の概要」2021
- 愛媛県教育委員会「10月定例会会議録」（平成23年度～令和4年度）
- 島根県教育センター「『若手教職員を育成する校内サポート体制づくり』を支える教育センターとしての関わり（2年次）」2022